

第 3 号

発行日 平成16年7月10日
 編集 NPO法人
 旭川障害者連絡協議会
 発行者 峰 木 光 春
 住 所 旭川市宮前通東4155番地30
 障害者福祉センター
 「おびった」3F
 電 話 0166-31-2226

障連協にゅーす

NPO法人



■天井から初夏の日を浴びて・・・あかしあ水泳サークルのメンバー

就任にあたって

共に暮らす豊かなまち

皆んな「おびった」で会おう



NPO法人 旭川障害者連絡協議会

理事長 峰 木 光 春

皆さまには益々御健勝のこととお慶び申し上げます。去る五月三十日の総会において理事長の職責を果たすことになりました。経験も浅く高齢でもありますが当番の覚悟で微力も尽くしたいと考えています。

鈴木前理事長は協議会の法人化や障害者福祉センターの運営委託を軌道に乗せるなど先頭に立って努力をされた実績は大きなものと考えます。

障害者を取り巻く情勢は平成十五年から十力年の障害者基本計画を策定し、障害者の自立と社会参加の支援をするための施策が打ち出されました。一方で国は財政再建のもとに三位一体改革（税源の移譲・補助金の減廃・交付金の見直し）は現実のものとなり障害者の施策にも表れています。最近の共同作業所運営補助金や特定難病患者の医療費補助金のカット等は個人の尊厳と生活の権利を無視するかのような事態にあると考えます。

一時的な景気低迷や外圧等によるしわ寄せが弱者への財源から回すというのであれば大きな問題です。

NPO法人「障連協」は健常者も障害者もお互いが理解と協力し合い共に生きるやさしいまちづくりのために設立したものであります。その中核となる障害者福祉センターは市民の暖かい理解と励ましによって設立し運営されています。日増しに高齢者や一般市民の利用も目立ち、ウォーキングや水泳など体力づくりの人も増えています。一方で障害者が生活全般の相談ができる機能も必要としていますのでソフト面の充実が今後の課題となります。

社会の多様化・高齢化等によって障害者団体の運営はどこも厳しさを増しております。国や自治体は障害者に支援する役割を持ちますが、本人も努力し実践することが基本です。今後とも所属団体と障連協の発展のためにご理解ご協力くださることを期待しつつ就任のご挨拶といたします。

2004年度特定非営利活動法人 旭川障害者連絡協議会定期総会

と き 2004年5月30日(日) 午後1時30分～4時
ところ 旭川障害者福祉センター「おっぴた」第1会議室

2004年度NPO法人旭川障害者連絡協議会定期総会が上記の日程で開催されました。総会次第は高橋正巳氏の司会で開会し、はじめに鈴木勲理事長の挨拶、続いて重野健一旭川市保健福祉部長・福田旭川市社会福祉協議会事務局長より来賓挨拶を受けました。総会出席者数確認の上、議長に難病連旭川支部より滝田仁氏、議事録署名人に「旭川身体障害者肢体協会」の川尻朝雄氏・「旭川手をつなぐ育成会」の川森優子氏を選出し議事にはいりました。議事内容は以下のとおりです。

報告事項

- 第1号議案 平成15年度 事業活動報告
- 第2号議案 平成15年度 収支決算報告
- 第3号議案 平成15年度 監査報告

審議事項

- 第4号議案 平成16年度 事業活動方針(案)
- 第5号議案 平成16年度 収支予算(案)
- 第6号議案 障連協組織運営(案)
- 第7号議案 定款一部変更
- 第8号議案 役員改選(案)

第7号議案の定款一部変更により、副理事長が新たな役職として付加されました。また相談役をおくことができる項目も加えられました。

第8号議案の役員改選では役員選考委員会(稲垣則子選考委員長)で選考された以下の役員が選出されました。

法人第2期役員名簿

2004年6月1日～2006年5月31日

- 理事長 峰木 光春(旭川手をつなぐ育成会)
- 副理事長 荒川 繁雄(旭川身体障害者福祉協会)
- 副理事長 青木 利子(旭川アカシア会)
- 専務兼事務局長 工藤 フサ
(北海道難病連旭川支部)
- 常任理事
平山 ひろ子(旭川肢体不自由児者父母の会)

- 篠田 良雄(旭川リハビリ友の会)
- 鈴木 勲(旭川ろうあ協会)
- 田辺 邦夫(旭川車イスの会)
- 佐藤 忠公(障害者問題を考える会)

■理 事

- 村瀬 稔幸(旭川盲人福祉協会)
- 石川 清詞(旭川精神障害者家族連合会)
- 稲垣 則子(旭川地域共同作業所連絡協議会)
- 川尻 朝雄(旭川身体障害者肢体福祉協会)
- 大橋美智子(旭川中途難失聴者協会)

■監 事

- 富田 和信(旭川視力障害者福祉協会)
- 惣伊田敏行(NPO法人 NPOサポートセンター)

2003年度活動報告

1. 業務委託、補助事業について

市よりの業務委託は、前年同様のセンター管理業務委託事業とシャトルバス運行補助事業と新たに旭川市障害者スポーツ関連振興事業業務、「旭川市障害者の日」記念事業の委託を受託して活動をしてまいりました。

(1) スポーツ関連では、年11回のスポーツ教室、旭川市障害者スポーツフェスタ、旭川市障害者球技大会、約580名の参加、ボランティア・スタッフ330名で終了しました。

(2) 「旭川市障害者の日」記念事業は300名の参加で成功裡に終了することが出来ました。

(3) 「障連協にゅーす」年2回で3,000部を発行しました。点字及びテープ版も作成しました。

(4) 「おっぴた」の利用について

■会議室等年間利用者数

35,140名(内障害者 20,784名)

■水浴訓練室年間利用者数

30,933名(内障害者 21,966名)

■機能回復訓練室等年間利用者数

37,645名(内障害者 6,323名)

■ 体育館年間利用者数

17,785名(内障害者 10,188名)

■ シャトルバス年間利用者数 9,163名

2003年度障連協広報部活動報告

NPO法人障連協の機関紙発行については、2002年度末の理事会で提案され、広報部を中心に2003年度より創刊することが決まりました。

第1回広報部会は事務局も加わり4月4日に開かれ、機関紙の編集内容・部数・発行回収・予算・印刷所・機関紙名の募集・配布先などについて協議されました。

■ 機関紙の編集内容：加盟団体の活動状況の交流・NPO法人障連協の動き・障害者福祉関連ニュースなどを主な柱としました。

■ 発行部数：各団体の必要部数を問い合わせ、合計1,500部

■ 発行回数：年度2回

■ 印刷等予算：約7万円

■ 2003年度印刷所：「かがやき工房」

■ 機関紙名：4月26日を締め切りとして各団体より募集

■ 発行日：2003年6月10日、12月10日。
その後、6回の編集会議を経て、機関紙名はNPO法人「障連協にゅーす」と決定され、創刊号は予定通り6月10日発行となりました。

2号は12月10日発行をめざし10月末より編集作業にはいりました。その編集会議の中で1月の新春号があったほうが良いのではないかとという部のスタッフからの提案があり、理事会に諮ることとなり、結果発行月は1月と7月に変更となりました。

2号は、障害者スポーツフェスタ・「障害者の日」などの法人の委託行事が目白押しに続き、それらの記事もあって1号よりも多い頁数となりました。2004年1月10日発行です。広報部員4人ほとんどはじめての編集作業ということもあり不十分でありましたが、みなさまのご協力により年度内2回の機関紙を予定通り刊行することができました。

平成15年度特定非営利活動に係わる事業収支

平成15年4月1日から平成16年3月31日

科目	15年度予算		15年度決算		備考
	科目明細	合計	科目明細	合計	
I 収入金額					
1. 会費収入					
個人会員	54,000		51,000		@3000
団体会員	75,000		75,000		@5000
2. 事業収入					
管理運営委託料	58,924,623		58,924,623		センター管理事務委託金
バス運行事業補助金	8,700,000		8,700,000		バス事業補助金
障害者スポーツフェスタ	618,920		618,920		障害者スポーツフェスタ委託金
障害者スポーツ教室	273,660		273,660		障害者スポーツ教室委託金
障害者球技大会	571,920		571,920		障害者球技大会委託金
障害者の日	1,086,000		871,191		障害者の日委託金
3. 寄付金	30,000		27,600		惣伊田氏より現金受領
4. 交付金・助成金	1,300,000		1,681,092		トライアル雇用交付金、特定求職者雇用開発助成金 他
5. 自販機収入	600,000		750,185		自動販売機手数料(道北飲料、ココロ、パシフィックベンディング、身障協会)
6. その他	200,000		363,690		コピー料、普通預金利息
7. 各事業より			5,996,060		
小計A		75,843,415		78,904,941	
8. 前年度繰越	3,409,292		3,409,292		
収入合計		75,843,415		82,314,233	
II 支出金額					
1. 管理運営事業					
給与(賃金含む)	18,741,105		19,265,185		管理職員、看護師、理学療法士
賞与	2,750,000		2,836,000		管理職員、看護師
通勤手当	1,049,120		1,046,080		管理職員、看護師、理学療法士
燃料手当	748,000		800,800		管理職員、看護師
健康保健	944,975		777,515		管理職員、看護師
厚生年金	1,646,341		1,462,998		管理職員、看護師
雇用労災保険	349,323		258,926		管理職員、看護師
児童手当拠出金	20,875		18,811		管理職員、看護師
健康診断料	75,000		55,000		管理職員、看護師
福利厚生費			21,871		職員制服代 他
消耗品	2,169,685		2,402,328		施設内消耗品、検査料
修繕費	797,200		1,093,293		施設内外修繕費
委託料等	22,512,360		21,447,050		水浴訓練室他施設内点検委託、公共駐車場及び職員出入口除雪 他
管理事務経費	535,370		467,753		一般事務経費
通信費	773,880		662,364		電話料、NHK放送受信料、インターネット受信料 他
リース料	1,414,200		1,409,304		トイレ防臭機、分煙機、レジスター、プリンター 他
保険料	101,066		103,360		施設賠償保険料、美術品保険料 他

交際費 租税公課 委託報酬 小計	1,155,383		20,000 84,800	54,233,438 4,681,002	共生会謝礼 収入印紙代 障連協分事務経費負担 障連協分事務経費負担・バス事業一部負担
障連協委託分 小計		55,783,883		58,914,440	
2. 連絡バス運行事業					
給与	7,006,800		7,230,106		運転手、介助員
賞与	1,007,800		1,019,500		運転手、介助員
通勤手当	422,400		395,400		運転手、介助員
燃料手当	316,800		237,600		運転手、介助員
健康保健	318,840		324,158		運転手、介助員
厚生年金	552,875		490,687		運転手、介助員
雇用労災保険	121,274		103,506		運転手、介助員
児童手当拠出金	7,010		6,869		運転手、介助員
健康診断料	30,000		25,000		運転手、介助員
福利厚生費			16,821		職員制服代
車検費用・任意保険	532,000		421,683		車検費用、車両任意保険
車両燃料費	552,000		448,838		バス燃料費
運行事務経費	805,889		7,560		事務消耗品、
小計		11,673,688		10,727,728	
3. 障害者スポーツフェスタ事業					
事務費	394,420		65,800		事務手数料、通信費 他
報償費	134,500		70,000		スポーツ協会謝礼 他
消耗品	70,000		183,252		消耗品
災害保険料	20,000		13,884		参加者等損害保険料
小計				332,936	
障連協委託分				290,000	障連協分事務経費負担
小計		618,920		622,936	
4. 障害者スポーツ教室事業					
事務費	100,660		9,000		事務手数料、通信費 他
報償費	110,000		110,000		スポーツ協会謝礼 他
消耗品	30,000		26,115		消耗品
災害保険料	33,000		28,060		参加者等損害保険料
小計				173,175	
障連協委託分				100,485	障連協分事務経費負担
小計		273,660		273,660	
5. 障害者球技大会事業					
事務費	394,420		23,380		事務手数料、通信費 他
報償費	92,500		32,000		スポーツ協会謝礼 他

消耗品 災害保険料 小計	70,000 15,000		49,686 10,400	115,466 456,454	消耗品 参加者等損害保険料 障連協分事務経費負担
障連協委託分 小計		571,920		571,920	
6. 障害者の日事業					
事務費	286,700		55,180		事務手数料、通信費 他
報償費	200,000		160,000		講師謝礼 他
消耗品	579,300		175,352		会場設営費、啓発用チラシ 他
旅費交通費	20,000		12,540		交通費
小計				403,072	
障連協委託分				468,119	障連協分事務経費負担
小計		1,086,000		871,191	
7. 学習会					
謝礼	200,000		0		講師謝礼 他
旅費	150,000		0		交通費
会場借上げ	50,000		0		会場設営費 他
小計		400,000		0	
8. 一般管理費					
賞金	2,134,600		2,131,400		事務局員
法定福利費	271,521		230,378		事務局員
健康診断料	7,500		5,000		事務局員
福利厚生費	0		20,000		センター1周年記念補助費
旅費交通費	800,000		690,495		事務局長交通費、理事会及び常務理事会交通費
通信運搬費	90,000		118,072		電話料、郵送料
印刷製本費	100,000		278,200		機関誌発行代
車両費	120,000		120,000		事務局員車両借り上げ及びガソリン代
使用料(会議費)	35,000		51,571		会議用会場費 他
負担金	5,000		11,000		NPOサポートセンター入会費 他
事業費	900,000		455,372		各事業の事業費
事務用品費	150,000		229,440		事務消耗品 他
交際費	100,000		74,830		慶弔費 他
租税公課	100,000		1,000		印紙代 他
予備費	441,723		15,665		活動予備費
減価償却費	0		14,655		
支払報酬	100,000		105,000		税理士事務手数料
法人税等	80,000		80,000		法人道市民税
小計		5,435,344		4,632,078	
支出合計		75,843,415		76,613,953	
当該年度残高				2,290,988	小計Aー支出合計
次年度繰越		0		5,700,280	

平成15年度決算報告試算表

貸借対照表
《資産の部》

勘定科目/事業名	障害者連絡協議会	管理運営事業		スポーツ関連委託事業			記念委託事業	合 計
		管理事務委託事業	バス運行補助事業	スポーツフェスタ	スポーツ教室	球技大会	障害者の日記念	
【現金・預金】								
現金	151,275	50,000	0	0	0	0	0	201,275
普通預金	3,914,307	4,678,083	300,388	-4,016	0	0	0	8,888,762
定期預金	1,000,000	0	0	0	0	0	0	1,000,000
合計	5,065,582	4,728,083	300,388	-4,016	0	0	0	10,090,037
【流動資産】								
未収入金	95,699	0	0	0	0	0	0	95,699
合計	95,699	0	0	0	0	0	0	95,699
【有形固定資産】								
少額資産	766,965	0	0	0	0	0	0	766,965
合計	766,965	0	0	0	0	0	0	766,965
資産の部合計	5,928,246	4,728,083	300,388	-4,016	0	0	0	10,952,701

《負債の部・資本の部》

【流動負債】								
未払金	143,950	3,119,883	300,388	0	0	0	0	3,564,221
未払法人税等	80,000	0	0	0	0	0	0	80,000
預り金	0	0	0	0	0	0	0	0
前受金	0	1,608,200	0	0	0	0	0	1,608,200
負債の部合計	223,950	4,728,083	300,388	0	0	0	0	5,252,421

【資本金】

資本金	0	0	0	0	0	0	0	0
資本の部合計	0	0	0	0	0	0	0	0

【繰延資産】

前期余剰損益	3,430,629	-10,183	-11,154	0	0	0	0	3,409,292
今期余剰損益	2,273,667	10,183	11,154	-4,016	0	0	0	2,290,988
次期繰越合計	5,704,296	0	0	-4,016	0	0	0	5,700,280

損益計算書

《収入の部》

勘定科目/事業名	障害者連絡協議会	管理運営事業		スポーツ関連委託事業			記念委託事業	合 計
		管理事務委託事業	バス運行補助事業	スポーツフェスタ	スポーツ教室	球技大会	障害者の日記念	
会費収入	126,000	0	0	0	0	0	0	126,000
事業収入助成交付金	1,681,092	0	0	0	0	0	0	1,681,092
事業収入自販機手数	750,185	0	0	0	0	0	0	750,185
事業収入交流会費等	328,500	0	0	0	0	0	0	328,500
事業収入ポ一手数料	34,742	0	0	0	0	0	0	34,742
事業収入旭川市より	0	58,924,623	8,700,000	618,920	273,660	571,920	871,191	69,960,314
寄付金収入	27,600	0	0	0	0	0	0	27,600
事業収入他の事業より	3,957,178	0	2,038,882	0	0	0	0	5,996,060
収入の部合計	6,905,297	58,924,623	10,738,882	618,920	273,660	571,920	871,191	78,904,493

《支出の部》

給料手当	1,786,800	20,311,265	7,625,506					29,723,571
賞与	344,600	3,636,800	1,257,100					5,238,500
法定福利費	230,378	2,518,250	925,220					3,673,848
福利厚生費	25,000	76,871	41,821					143,692
交際費	74,830	20,000						94,830
会議費	51,571			13,500		3,380		68,451
旅費交通費	690,495						12,540	703,035
通信費	118,072	662,364		8,000	9,000		8,000	805,436
消耗品費		2,402,328		183,252	26,115	49,686	175,352	2,836,733
修繕費		1,093,293						1,093,293
保険料	4,500	103,360	119,710	13,884	28,060	10,400		279,914
委託料等	3,500	21,447,050						21,450,550
事務費	229,440	467,753	7,560	44,300		20,000	44,680	813,733
リース料		1,409,304						1,409,304
租税公課	1,000	84,800					2,500	88,300
新聞図書費	7,665							7,665
印刷製本費	278,200							278,200
車両費	120,000		750,811					870,811
支払報酬/報償費	105,000			70,000	110,000	32,000	160,000	477,000
事業費	455,372							455,372
負担金	11,000							11,000
減価償却費	14,655							14,655
法人税等	80,000							80,000
小計	4,632,078	54,233,438	10,727,728	332,936	173,175	115,466	403,072	70,617,893
障連協及びバス事業へ		4,681,002		290,000	100,485	456,454	468,119	5,996,060
支出の部合計	4,632,078	58,914,440	10,727,728	622,936	273,660	571,920	871,191	76,613,953

《営業外収益》

勘定科目/事業名	障害者連絡協議会	管理運営事業		スポーツ関連委託事業			記念委託事業	合 計
		管理事務委託事業	バス運行補助事業	スポーツフェスタ	スポーツ教室	球技大会	障害者の日記念	
受取利息	448	0	0	0	0	0	0	448
営業外収益の部合計	448	0	0	0	0	0	0	448

《差引損益計算》

前期余剰損益	3,430,629	-10,183	-11,154	0	0	0	0	3,409,292
今期余剰損益	2,273,667	10,183	11,154	-4,016	0	0	0	2,290,988
次期繰越合計	5,704,296	0	0	-4,016	0	0	0	5,700,280

財 産 目 録

(2004/3/31現在)

銀行名	預金種類	口座番号	合計残高
北洋銀行	定期預金	4,384,703	1,000,000
北洋銀行	普通預金	4,139,655	8,888,762
手持ち現金	受付釣銭分		50,000
手持ち現金	事務局手持分		151,275
合 計			10,090,037

受付にて保管

各事業現在高

2004/3/31現在

事業名/預金種類	定期預金	普通預金	現 金	合 計
障連協	1,000,000	3,914,307	151,275	5,065,582
管理事業	0	4,678,083	50,000	4,728,083
バス事業	0	300,388	0	300,388
スポーツフェスタ	0	-4,016	0	-4,016
スポーツ教室	0	0	0	0
球技大会	0	0	0	0
障害者の日	0	0	0	0
合 計	1,000,000	8,888,762	201,275	10,090,037

資産及び負債残高	未収入金	少額資産	前受金	未払金	未払法人税等
障連協	95,699	766,965	0	143,950	80,000
管理事業	0	0	1,608,200	3,119,883	0
バス事業	0	0	0	300,388	0
スポーツフェスタ	0	0	0	0	0
スポーツ教室	0	0	0	0	0
球技大会	0	0	0	0	0
障害者の日	0	0	0	0	0
合 計	95,699	766,965	1,608,200	3,564,221	80,000

会 計 監 査 報 告 書

平成15年度、特定非営利活動法人旭川障害者連絡協議会の会計事務監査の結果、支出帳票、預金通帳及び関係書類等が、適正かつ正確に処理されていることを報告します。

平成16年 4月24日

監 事 富田和信 
 監 事 惣伊田敏行 

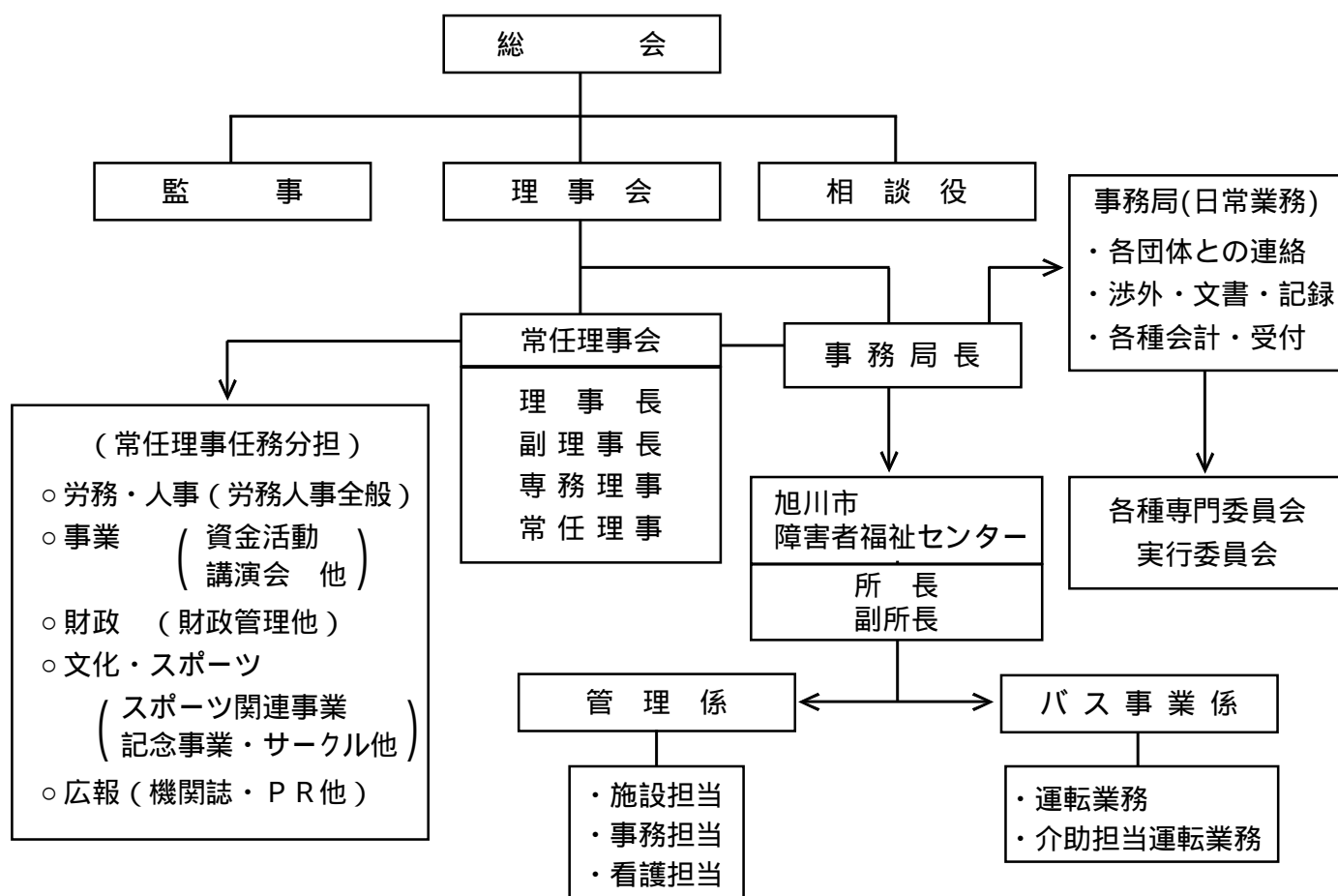
2004年度 私たちの活動の目標と重点

1. 行政との協働活動を今より以上に強めましょう。
2. 障連協・関係機関、支援をしてくださる方々を結ぶ「障連協にゅーす」の充実に努めます。
3. 他団体の諸活動・他のNPO法人との交流にも参加しましょう。
4. 「おびった」利用者の向上に努めましょう。
5. 障害者も出来るボランティア活動にも参加しましょう。
(使用済み切手回収・リングブル等)

旭川市よりの委託事業及び補助事業内容

旭川市福祉センター管理事務委託事業
 旭川市福祉センターバス運行補助事業
 旭川市障害者スポーツ教室委託事業
 旭川市障害者スポーツフェスタ委託事業
 旭川市障害者球技大会委託事業
 旭川市「障害者の日」記念委託事業

特定非営利活動法人 旭川障害者連絡協議会 運営機構図



障連協の動き (平成16年1月～7月)

第3回旭川ボッチャ大会

と き：平成16年5月28日(日)午前10時
 ところ：旭川市障害者福祉センター「おびった」
 (旭川市宮前東4155番地30)
 主 催：旭川障害者スポーツ協会

報告：旭川障害者スポーツ協会
 体育館部会指導部長 阿部 龍雄

熱戦に会場盛り上がる

立位の部 小山選手(選手宣誓)

座位の部 藤井選手に栄冠!

第3回旭川ボッチャ大会(主催旭川障害者スポーツ協会)が28日旭川障害者福祉センター「おびった」で開催、大会選手45名(立位29名・座位16名)によるトーナメント方式で行なわれました。大会毎にボッチャ技術も向上しており、今大会では、総試合数64試合中2点以内での試合が26試合と接戦続きで、会場から緊張感と拍手とが交叉。タイブレーク(同点の場合)試合が10試合もありました。

また、勝敗が決まる試合内容の中で、ジャックボールから赤と青ボールの距離が2mmの差で、しかも最終ラウンドで逆転負けと見ごたえのあるゲームもありました。

今大会で選手宣誓した小山選手(旭川美景園)も決勝戦で同僚との対決を制して初優勝。座位の部は準決勝で村上選手に辛勝した藤井選手が決勝戦で8対0と完勝しました。

最後に、競技・審判長の講評

今大会では、ボッチャレベルの向上が見られました。中でも距離感の取り方がとてもうまく、ボールが集中している試合がかなりありました。

今後の練習課題

- 1) 試合におけるメンタル面の練習(自分が有利な展開から不利になった時の気持ちのきりかえを練習から積み重ねる)
- 2) ジャックボールから自玉のエリアーをいかに大きくする事が出来るかを練習の積み重ね。今後皆さんとボッチャ競技の技術向上にむけて頑張りましょう。

第3回 旭川ボッチャ大会成績

立位の部

優	勝	小山 武選手
2	位	佐藤 善則選手
3	位	岡音 敏博選手
3	位	篠田 良雄選手 (敗者復活戦優勝)

座位の部

優	勝	藤井 博史選手
2	位	大野由紀子選手
3	位	阿部 幸恵選手
3	位	五十嵐眞幸選手 (敗者復活戦優勝)

■ 第3回ボッチャ大会



No	写真の内容紹介
1	喜びの表彰を受ける選手
2	距離をさだめる選手・・・

6・8北海道の医療費助成を 考える緊急道民集会

と き：平成16年6月8日(日)午後1時
ところ：「かでる2・7」大会議室及び道議会
主 催：道医療費助成を考える連絡会

6.8緊急道民集会

□「6・8北海道の医療費助成を考える緊急道民集会」

道が重度障害者医療費助成制度に一部負担を導入しようとする問題で、「障害者医療費助成制度」・「道特定疾患対策事業」の見直しの撤回と制度の充実を高橋はるみ知事、北海道議会議長に要求する「6・8緊急集会」が札幌市で開催されました。

この集会は道内の約150の障害者関係団体でつくる「北海道の医療費助成制度を考える連絡会」（小谷晴子代表）が主催したものです。当日は会場の「かでる2・7」大会議室は360名をこえる参加者でいっぱいでした。

DPI北海道ブロック会議事務局長の我妻 武氏より現在、道議会では「継続審議」にまでもちこんでいること、署名は一万筆の目標であったのが23,879筆集約されていることなど切実で緊急な運動の現状が報告されました。

つづいて当事者の発言では「道の赤字解消のために、人の命を削って財政を立て直すことでいいのか。赤字財政は道の行政の責任ではないか！」
「一割の負担増は通院することを躊躇^{ちゅうちよ}するようになる。身体的にも経済的にも負担がかかる。」
「精神障害の自分たちはこの制度から除外されている。法の下での平等に反する。精神障害者にも適用してほしい。」
「夕張からの高速道路などに無駄な公共事業費を予算化している。それに比べ30～40億円の医療費助成金はわずかであり、もっとも弱いもののところからなぜ削っていくのか。わたしたちは到底許すことができない！」など激しい怒りの声が相次ぎました。

この後、道庁で署名の提出と高橋知事の面談を申し入れていましたが、知事は出席せず、三善保健福祉部次長と加納主幹が対応しました。ここでも知事の不適切な対応に、当事者の怒りと切実な声は一層高まりました。

三善次長からこれまでの経過を踏まえ、道庁内に検討委員会を設け緩和策を検討中であるとの説

明がありましたが、委員に当事者が加えられていない問題も指摘されました。

当法人からも、会員が至急集めた署名約450筆をもって峰木・荒川・青木・平山・稲垣の理事会役員と旭作連の川田一寛さんが参加しました。

■ 6・8 緊急道民集会



No	写真の内容紹介
1	「かでる2・7」の緊急道民集会会場
2	道庁前にての抗議行動
3	集会に参加した障連協の役員

北海道福祉のまちづくり賞を受賞！

募集状況：募集期間 平成15年9月1日～9月30日
 応募件数 ハード部門：54件 ソフト部門：24件
 審査状況：審査期間 平成15年10月～12月
 最終審査 平成15年12月24日

■北海道福祉のまちづくり賞とは？

北海道福祉のまちづくりコンクールは、平成10年の「北海道福祉のまちづくり条例」の施行に伴い、福祉的配慮に優れた公共的施設の優良事例を広く道民や関係事業者に普及啓発を図ることを目的として平成10年から実施しており、昨年までハード部門55施設を優良施設として表彰しています。6回目を迎えた本年度からは、平成15年8月の条例改正に伴って、障害者、高齢者等の自立・社会参加を支援する活動を対象としたソフト部門を新たに設け、全道に広く募集を行いました。その結果、ハード部門54件、ソフト部門24件の応募をいただき、福祉・建築・市民活動等の専門家で構成する審査委員会の選考を経た上で、ハード部門については、最優秀賞1件、優秀賞3件、奨励賞6件、ソフト部門については、最優秀賞1件、優秀賞3件、奨励賞5件をそれぞれ選定しました。

■北海道福祉のまちづくりコンクールについて

北海道では、平成10年4月に「北海道福祉の

まちづくり条例」を施行し、障害のある人やお年寄り、赤ちゃんを連れた人など、誰もが気軽にまちな出かけ、建物や道路、公園などを安心して快適に利用することができる「福祉のまちづくり」を進めており、この取り組みの一環として、福祉的配慮に優れた公共的施設等を対象とした「北海道福祉のまちづくりコンクール」を毎年実施しています。平成15年8月に条例が改正され、公共的施設のバリアフリー化とともに、各種サービスやボランティア活動の充実などソフト面の取り組みも含め、総合的に、「福祉のまちづくり」を推進することとしたことに伴い、本コンクールについても、今年度から従来の公共的施設等を対象としたハード部門に加え、障害者・高齢者等の自立・社会参加を支援する活動を対象としたソフト部門を新たに設け、改正条例の趣旨の普及啓発を図ることとしました。

■北海道福祉のまちづくりコンクール審査委員

佐藤 克之 北海道浅井学園大学大学院人間福祉学研究所教授
 (委員長)

三瓶 徹 北海道老人福祉施設協議会幹事

三浦 聡 (財)北海道建築指導センター事業部長

森谷 雅美 (財)北海道地域活動振興協会次長

山本 明恵 (社)北海道建築士会理事

横井 寿之 北海道医療大学看護福祉学部医療福祉専攻科教授

我妻 武 (財)北海道肢体不自由児者福祉連合協会評議委員

●ハード部門

「北海道福祉のまちづくり賞」・平成15年度・受賞事例集より抜粋して紹介！

優 秀 賞

旭川市障害者福祉センター「おびった」

- 所在地 旭川市宮前通東4155番地30 TEL 0166-45-0750
- 所有者 旭川市
- 設計者 中原・松本・富居 共同企業体 TEL 0166-59-0257((株)中原建築設計事務所)



選考理由

建物出入口近くに車いす使用者用駐車場を普通車用18台、大型バス用3台設け、玄関に音声案内装置を設置しているほか、廊下には点字案内表示が付いた大人用・子供用の二重の手すりを両側に設置しています。

また、リフト付きバスにより送迎サービスをおこなうほか、オストメイト対応トイレや誘導音付点滅型誘導灯を設けるなど、だれもが利用しやすい施設として整備していることが高く評価されました。

NPO法人 旭川障害者連絡協議会

障連協 加盟団体の動き

社団法人 旭川手をつなぐ育成会

会長 峰木 光春

旭川市2条通9丁目左4号 山口ビル5階
TEL 25-2120

知的障害者とはどんな人か。あまり知られていませんが話しかけても返事が遅く、動作が鈍く、表情が無い等ですが性格は優しく、きれいな心をもっております。

街での挨拶や金銭管理も不得手なため、暴力や金銭トラブルに巻き込まれる例があり、交番でも話がうまく出来ず、加害者に間違われることもあります。

障害者の皆さんに知的障害の特徴を知っていただきますと、知的障害者はきっと心強く感じると思います。障害者同士が互いに理解し協力し合えば素晴らしい福祉の街になると考えます。

「知的障害のある人」はどんな人？



(社)旭川身体障害者福祉協会

会長 荒川 繁雄

旭川市宮前通東4115番地30
TEL/FAX 34-6099

□活動報告

平成16年度通常総会は去る5月9日(日)「おぴった」において開催。会員340名の出席により議案審議をいただき、新年度の事業及び予算計

画等提出議案を全会一致で承認可決されました。

承認された事業計画の主な行事((社)協会分)

1. (社)研修旅行 9月26日(日)(留萌市神居岩温泉)
2. 第53回全道身体障害者福祉大会 10月23~24日(伊達市)
3. 全道障害者卓球球技大会 11月14または21日(札幌市身障者福祉センター)
4. 表彰受賞者祝賀会(市長・北身協会会長) 11月中旬(会場未定)

「障害者の日記念事業」

国際親善音楽交流特別演奏会

今年も指揮者、及川光悦先生のご好意により、来る10月28日(木)18時30分より旭川市民文化会館において私達障害者・他1,150名を無料ご招待して下さる文書連絡が参りました。

チケットが参りましたらお知らせ致しますので障連協の皆さん多数の方の参加申し込みをお願いいたします。

出演者はルーマニアのヴァイオリン奏者及びピアノ奏者です。司会はおなじみの(女優)中原ひとみさんです。乞うご期待!!

財団法人北海道難病連旭川支部

支部長 工藤 フサ

旭川市5条通5丁目1690-1
TEL・FAX 24-7690

□活動報告

■5月8日(土) 2004年度定期総会

2004年度定期総会は、旭川市ときわ市民ホール・101号室において、午後1時30分より開催されました。2003年度の活動報告及び決算報告、2004年度の活動方針(案)及び予算(案)を承認し無事終了。総会終了後、場所をアザレア館2Fに移して、各部会役員懇親会を行い、今年度の活動方針等について意見交換しました。

■5月15日(土) (財)北海道難病連2004年度定期総会・交流会(出席:6名)

■ 5月16日(日)

(財)北海道難病連2004年度支部協議会

■ 6月8日(火)「6・8緊急集会」

10月から北海道の「重度心身障害者医療費助成制度」及び「北海道特定疾患対策単独事業」などへの見直しに反対し、多くの障害者団体が参加する「北海道の医療費助成を考える連絡会」は、6月8日札幌市「かでの2・7大会議室」において緊急集会を開催。会場は360名以上の参加者であふれ、問題の重要性、緊急性を表しております。集会は「連絡会」のこれまでの経過報告と当事者5名からの悲痛な発言があり、集会終了後全員で道庁へ移動、代表者が要望書を携えて高橋知事に面会を求め道庁内へ、沿道を埋めた多くの参加者は道庁前で横断幕、垂れ幕、プラカードなどに怒りの声を書き込み、又、声を張り上げ見直し反対を訴えました。

■ 6月26日(土) 第108回運営委員会

■ 7月4日(日) 新事務所へ引越し

旭川アカシア会

代 表 青木 利子

旭川市4条通21丁目左7号
TEL/FAX 32-7631

旭川アカシア会 かわら版

10月に第4回「障害者医療講演会」を開催します。ストレスなどさまざまな要素で、うつ症状やうつ病が現れてきたときの予防や付き合い方などについて、精神科医である三浦 彌先生を講師にお招きし話を伺います。

第4回 障害者医療講演会

講演内容 「現代人のうつ病について」

講 師 三 浦 彌 氏

医療法人社団 三浦メンタルクリニック

札幌市西区西町北6丁目4-14

日 時 2004年10月17日(日) 14:00~16:30

会 場 旭川市大雪クリスタルホール

旭川市神楽3条7丁目

Tel 0166-69-2000 FAX 0166-69-2001

主 催 旭川アカシア会

(連絡先: 0166-34-6018 担当・藤中)

共 催 社会福祉法人あかしあ労働福祉センター

(精神障害者の人権と福祉・第5回旭川市民講座)

参加費 無 料



この事業は赤い羽根共同募金会の配分金で
開催されます。

旭川肢体不自由児者父母の会

会 長 平山 ひろ子

(自宅) 旭川市神楽岡9条4丁目6-10

TEL・FAX 65-3597/TEL・FAX 33-5940(おびった)

父母の会、近況報告といたしまして、北海道肢体不自由児者福祉連合会の会長であり、北海道を代表する詩人で冬季オリンピックの代表曲でもあります、「虹と雪のバラード」「北の大地」など、後世に語り継がれる作詞の数々を残され、又、札幌医大名誉教授でもありました河邨文一朗前会長が3月30日に死去されました。各父母の会としまでも深い悲しみに暮れると共に、心よりご冥福をお祈り致します。

父母の会の会員であり、あかしあ労働福祉センターあかしあ会を代表して渡辺基孝君が全国のきょうさん加盟施設利用者・職長280名の国会請願団と共に、支援費制度見直しの陳情を国会議員に直に手渡されました。精一杯の願いが伝わる事と願っております。

父母の会の会員であり、旭川私立竜谷高校の3年生であります五十嵐眞幸君が、入学当初より車イスに乗り野球部のスコアとして大活躍し、その頑張っている姿がNHKテレビで放映されました。その放映を見て、父母の会としまでもとても嬉しく思い心より感動致しました。

父母の会でも、助成支援しております、車椅子バスケットチーム『旭川リバース』が、5月29日~30日に「札幌きたえる」で、開催されました、今年、最初の大会「会長杯」におきまして、出場チーム7チーム参加の中から、みごと優勝と言う素晴らしい成績を修めました。

僅かですが、助成支援しております父母の会と致しましては、とても嬉しく思うと共に、心より拍手を送りたいと思います。又、これからの健闘に期待し、応援しております。会員一同これからも頑張りますので、ご支援宜しくお願い致します。



旭川リハビリ友の会

会 長 高津 修
旭川市宮前通東4115番地30
TEL/FAX 34-6099

この度平成16年度定期総会にて会長に選任されました。高津 修と申します。現在会員数96名で脳卒中の障害者主力と障害手帳の発行されておられない障害者との団体であります、1972年に会の発足以来33年目という歴史があり、先輩達のご努力の積み重ねで存続して参りました。

後を継承して行くことに重責を感じ、微力乍ら会の為に努力せねばと思って居ります。時代の移り変わりと共に少しでもマンネリ化を脱皮し、新しい事にチャレンジを含め、会員みんなで協力しあえる様に進めて参りますので宜しくお願い申し上げます。障連協におかれましても、これから行政よりのいろいろと諸問題を抱え、大変な年になると思いますが、ご健康に注意して頑張っていたきたいお願い申し上げます。

今年度の活動報告

1) 新しい行事として

8月:「チャリティー・ビールパーティー」

9月:「仙台旅行」3泊4日

2) 月例行事として

日帰り温泉3回 屋外行事 3回

(ジンギスカン、イチゴ狩り、リンゴ狩り)

宿泊研修1回(2泊3日)

3) サークル活動

カラオケ愛好会 毛筆と筆ペン愛好会

水泳教室 パークゴルフ愛好会

旭川車イスの会

代 表 田辺 邦夫
旭川市永山6条4丁目14番7号
TEL 48-0929

旭川車イスの会は、年間事業計画に基づいて15年度も各行事等が無事終了いたしました。旭川車イスの会の大きな目的の一つとして会員相互の親睦・交流・情報交換等がありますが昨年は他団体との交流なども多くなり会員それぞれが違った角度からのふれあいがあったと思われた一年だった。今年も当会では、総会・新年交流会・レクリエーション・ボッチャ大会・そして、当会最大事業の23回目を迎える『道北圏車イススポーツ大会』を主催いたします。12月には1年の締めくくり

としてクリスマス&忘年会を計画しております。

また、旭川市障害者スポーツフェスタ・旭川市障害者球技大会・旭川市障害者の日記念事業に参加し、各団体との交流を深めていきたいと思っております。今年度から旭川車イスの会の役員体制が大きく変わりましたがこれからも新旧役員が力をあわせて旭川車イスの会を盛上げて行くつもりです、今後ともよろしくお願い申し上げます。紙面をお借りいたしましてご報告いたします。

障害者問題を考える会

代 表 中野 章
旭川市5条通10丁目コミュニティーセンターふれあい内
TEL/FAX 24-4971

「障がい者の暮らしやすい社会は、誰にとっても暮らしやすい社会」を標榜してスタートし、25年。バリアフリー化、ユニバーサルデザインの普及と、確かに、ハード面では「暮らしやすさ」が徐々に進んだようだ。反面、人と人の信頼感、協調性、社会の在り様...等々といったソフト面はどうだろう。

？のキーを、打ち続けなければならないように思えてならない。

「原点に還る」。言い古された言葉だが、使用頻度の多い言葉には、それなりの共感を得る真理があるはずだ。

今後もう多くの紆余曲折を経るだろうが、「障がい者の暮らしやすい社会は、誰にとっても暮らしやすい社会」。この原点を、しっかりと見据えた活動を、地道に続けて行く決意を新たにすることが、当会の最大の目標である。

旭川盲人福祉協会

会 長 村瀬 稔幸
旭川市宮前通東4155番地30
TEL・FAX34-6099

□平成16年度旭川盲人福祉協会組織と活動計画

役員名簿

会 長 村瀬 稔幸

「他団体役職名」(社)北海道視力障害者福祉連合会副会長・(社)旭川身体障害者福祉協会副会長・旭川盲人福祉センター支える会会長・旭川障連協理事(文化スポーツ)

副会長 酒井 信平

「他団体役職名」旭川盲人福祉センター支える会

副会長

副会長 水野 勝明

「他団体役職名」(社)旭川身体障害者福祉協会監事

事務局長 加藤 弘

旭川盲人福祉センター支える会監事

「他団体役職名」(社)北海道視力障害者福祉連合
会理事(青年協会長)

会 計 木崎 フサ子

「他団体役職名」(社)旭川身体障害者福祉協会理
事(広報副委員長)・旭川盲人福祉センター支
える会 部

厚生部長 前田 良則

文化部長 三浦 秀人

保健体育部長 木村 貴男

「他団体役職名」(社)旭川日本障害者福祉協会
理事(保体副委員長)

社会活動部長 岡本 忠樹

「他団体役職名」(社)旭川身体障害者福祉協会
理事・(研修副委員長)、旭川盲人福祉センター支
える会理事

広報部長 棟方 勲

生活環境部長 池田 康男

女性部会長 木崎 フサ子

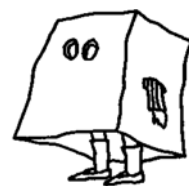
監 事 由井 敏通

監 事 野口 修二

以 上

□活動報告・予定

■平成16年度定期総会4月11日、4月25日(札幌市)■平成16年度(社)北海道視力障害者定期総会及び代表者会議5月9日■平成16年度(社)旭川身体障害者福祉協会定期総会■平成16年度全国盲人福祉大会・5月19～5月23日(金沢市)■施設見学及びレクリエーション・6月13日■全道障害者夏季スポーツ大会・7月3日～7月4日(留萌市近郊)■旭川障害者スポーツフェスター・7月18日■旭川盲人協会、ポッチャー大会・6月20日■全道視覚障害者球技大会・9月19日～9月20日(札幌市)■高齢者敬苑慰問・9月20日(旭元園)■全道視覚障害者福祉大会・10月3日(札幌市)■全道障害者福祉大会・10月23日～10月24日(伊達市)■旭川盲人福祉協会文化講演会・11月7日■全道障害者卓球大会・11月14日予定(札幌市)■旭川市障害者球技大会・11月予定■障害者記念の日事業・12月4日、12月5日■旭川盲人協会忘年会・11月28日～11月29日■旭川盲人協会年忘れボーリング大会・12月12日■

全道障害者冬季スポーツ大会 ■ 17年2月中旬
(深川市) 以 上

旭川精神障害者家族連合会

会 長 石川 清詞

旭川市神楽2条4丁目1-12旭川フレンドハウス内
TEL 63-2331

1. 毎月の例会

原則として第3水曜日午後「おびった」において、障害のこと家族会のことについての相談等を受けています。併せて役員会も開催しています。

2. 研修会の開催

当会主催で地域福祉権利擁護事業、成年後見制度や精神障害者のための法的な制度など、あるいは障害者の症状に対する理解と家族の対応についてのお話や意見の交換など、昨年は2回開催しました。今年も8月21日「おびった」で開構します。来年2月にも予定しています。

3. 各種大会に参加

毎年、北海道精神障害者家族大会や道北地域大会には、市の福祉バスを利用して20余名が参加しています。今年は9月18日苫小牧市、10月2日富良野市で開催されます。

4. 機関誌の発行

毎年、「旭家連だより」を年1回発行しております。研修会や大会等の報告お知らせのほか、家族当事者のなまの声などを掲載しています。10月発行の予定です。

旭川市地域共同作業所連絡協議会

会 長 稲垣 則子

旭川市8条通18丁目右3号
TEL 45-0700

旭川市共同作業所連絡協議会(近況)

支援費制度の実施から一年が経過したばかりなのに、肝心の関連制度が次々と後退し、介護保険と支援者の統合をはじめ、小規模通所授産施設や地域共同作業所に対する運営費補助金の削減、重度障害者医療費助成制度の1割負担のへ導入など、

障害者が生きて行くのは大変だと日一日と感じています。しかし、そのような障害者施策をめぐる情勢が激動する中でも、運営や実践、地域の発展をめざすためにも旭川市補助金交付基準に対する意見書も提出致しました。共同作業所に対する補助金が運営に占める重要性について、今年度の補助金削減により各作業所は元々少ない職員給与・賃金を減額しながら運営の継続を図らざるを得ない状況に追い込まれています。こうした職員の身分保障の不安定さが、職員の定着率の低下につながり、中堅職員が育たない悩みがあります。

心身障害者地域共同作業所補助金事業は他の事業とは違い、職員（指導員）の人件費と事務費（貸借料・燃料費・光熱水費・事務消耗品等）だけで大変な運営をしているのです。福祉施策の充実は誰もが願う共通の思いであると考えられます。21世紀の魅力ある街を創り出して行く上で最重要課題の一つであると考えられます。共同作業所に対する補助金が運営に占める重要性を1人でも多くの方達に知っていただきたいと思います。

明るいニュースとしては、今春から今日までに作業所の職員3人が結婚しました。おめでとうございます。頑張ってください。

これからも多くの行事に参加して、たくさんの仲間と出会い、ふれあい夢を持ち明るく生きている事に誇りを持ち続けたいと思います。

■ 7月の予定

7月14日（水）旭川障害者視察研修夏季親睦交流会

7月18日（日）旭川障害者スポーツフェスタ

旭川身体障害者肢体福祉協会

会 長 川尻 朝雄

旭川市宮前通東4115番地30

TEL/FAX 34-6099

去る5月30日に開かれた2004年度定期総会に於いて新しく理事に選任されました。当会からは前任会長の高橋正巳が常務理事として選出されておりましたが、この度連絡協議会相談役に就任したため、当会の代表として選出された次第です。よろしくお願いいたします。

当会は約450名の会員が各地区9分会に別れ、それぞれ分会独自の活動を展開しているのを助成支援しています。会としても4月の定期総会で本年の活動方針を決定、早速5月に施設見学会員交流研修旅行（美深）を終了しました。今後は会員交流会のほか、秋のイベント、市民参加の「ふれ

あい広場」を市や社協の後援をいただき実施いたしますので、皆様の参加ご協力をお願いいたします。また、上部団体の（社）旭川身体障害者福祉協会の行事（研修旅行・全道福祉大会・各種交流、交礼会等）や、（N）旭川障連協の各種行事（スポーツフェスタ・球技大会・障害者の日記念事業等）には全員参加を目標に、積極的に参加協力するよう努力して行きたいと思っております。

旭川中途難失聴者協会

会 長 大江 登美子

旭川市錦町18丁目

TEL/FAX 51-8937

当協会は、筆記でコミをするため、筆記の通訳者の養成に協力しています。

社会の中では耳の障害といえば「手話」というイメージがありますが、専門用語で言葉を覚えたあとで耳が聞こえなくなった者は失聴者と言い、耳が遠い者は難聴者で「中途失聴者」と言います。

私達中途障害者は主にコミは文字で行います。

文字は誰でも書ける。という思い込みがありますが、必要な言葉を通じるように書くのはよいではありません。

旭川市では文字の伝達が必要な聴障者に対し、要筆者を派遣しており、当協会はその要筆者の養成に協力しています。その事業の一つとして毎年「要約筆記を学ぶ会」を開いており、今年は7月～10月までです。受講者の募集は広報・新聞等が主でしたが、今年はケーブルテレビポテトの「わくわくライフ旭川」で募集して頂きました。

「旭川中途難失聴協会」の存在も、「要約筆記」という存在も、ほんのわずかに人にしか知られておりません。今後は知名度を高め、人知れず苦しんでいる仲間の手をさしのべる事ができるように努力したい。

■ 旭川視力障害者福祉協会

会 長 瀧田 幸明

旭川市東光15条4丁目3-4

TEL/FAX 54-7137

□ おかげ様で「30周年」

完全参加と平等を目標に昭和50年10月12日 旭川視力障害者福祉協会（旭視協）が先輩仲間同志の「千辛万苦」と切磋琢磨で発足し、今年は30周年を記念することが出来ます。旭視協は

視覚障害者(60%)健常者(40%)で構成し、全員が会員とし組織の中で地域福祉の保健医療福祉の増進を目標に共生している団体ですが「障連協」15団体中最少数の会員ではあるが健常者の心からの理解と協力があって年中行事すべてに全員参加し、自立と共生の広場を計画し、実施致して居ります。

創立当時を振り返ってみると、視覚障害者(精神弱者)の日常生活に単独で外出不可能となります。「ストレス」に千載一遇の為に、今年は秋に1泊2日の温泉旅行(カンボの宿)を計画して、着々と準備して居るところです。

「障連協」発足前後から現在までの旭川市に居住の視覚障害者手帳交付者数を調べてみました。

表 (福祉の手引きより)

年別	年齢別	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計	備考
昭和 49.4.1 (1974)	18才未満	11	6	4	8	16	5	880	発足 昭和50.10.12 (1975)
	18才以上	261	138	78	98	101	154		
昭和 59.4.1 (1983)	18才未満	28	6	4	2	8	4	1445	発足 昭和62.7.14 (1987)
	18才以上	405	264	109	166	188	261		
平成 13.4.1 (2001)	18才未満	10	5	2	3	2	-	1234	発足 平成14.9.19 (2002)
	18才以上	432	280	90	103	146	161		
昭和 15.4.1 (2003)	18才未満	9	4	2	2	4	-	1213	
	18才以上	391	309	109	98	144	165		

表のような手帳受給者がおりますが、「障連協」団体会員に加入は150名程度となっています。約90%(1,000名)の視覚障害者の方「おびった」で、仲間になりませんか？お待ちしております。幸いにも全国に胸を張って「バリアフリー」化した旭川障害者福祉センター「おびった」が全組織を掲げてお待ちしております。

最後になりましたが「旭視協」が、今日も元気に頑張れますことは、関係ある皆様方の常、日頃の御支援と御協力があったの賜ものであり、深く感謝申し上げ厚くお礼申し上げます。

■障連協の現況連絡について

6/27(日)旭視協のジンギスカン行事について
6/27(日)社協第24回共に生きる広場について
7/18(日)障連協行事(フェスター)について

- 「おびった」シャトルバスの利用について
- 使用済み郵便切手の回収について
- 障害者の日記念事業、手づくり品の協力方について

協 力
団 体
 旭川障害者スポーツ協会
 会 長 速 水 修
 (美景園)旭川市神居町富沢443番地4
 TEL 62-3556/FAX 62-3557

□平成15年度事業報告書

旭川市関連書業：今年度から障害者連絡協議会への委託業務となった。障害者スポーツ教室を障連協担当者と打ち合わせ、スポーツ教室の種目を決定し、教室の指導はスポーツ協会で行う。また、旭川市スポーツフェスタ・球技大会においても、大会に関する競技種目・競技運営において、全権を任されて活動しています。

1. 障害者スポーツ教室(障害者連絡協議会より委託事業)

- 1)旭川市ボッチャ教室 平成15年10月5日
- 2)旭川市グランドゴルフ教室 平成16年1月18日
- 3)旭川市フライングディスク教室 平成16年2月22日

- 4)旭川市障害者スポーツフェスタ 平成15年7月21日
- 5)旭川市障害者球技大会 平成15年11月30日

* スポーツ教室等の内容等については、旭川市障害者福祉センター「おびった」のホームページで検索できます。

2. スポーツ教室(旭川障害者スポーツ協会主催)

1) スポーツ教室

第1・第3土曜日午後の部 参加者 25~40名
種目(ボッチャ2コート・卓球3~4コート・フライングディスク)

第2・第4水曜日夜間の部 参加者5名程度(平成16年1月終了)

2) 第3回ボッチャ大会開催 平成16年3月28日

3. 障害者スポーツ大会指導支援活動(スポーツ協会あて依頼あり)

1)全道聴覚障害者球技大会参加にあたり、旭川三親会会長より指導依頼。(ソフトバレーの指導)大会予選リーグ敗退。敗者による交流大会 優勝

2)第3回全国障害者スポーツ大会参加のため、強化合宿以降指導依頼。石井選手・聴覚障害・下肢障害(6月~11月)教育大学学生協力(2回)陸上競技 砲丸投げ 9m11cm(金メダル)やり投げ24m75cm(銅メダル)

□平成16年度 事業計画書

1. 旭川市関連事業：障害者連絡協議会への委託業務となっています。今後、障害者スポーツ教室を障連協担当者と打ち合わせて行い、スポーツ教室の種目を決定し、教室の指導はスポーツ協会で行う。

■事業内容

1) 旭川市障害者スポーツフェスタ

とき：7月18日(日)

場所：大雪アリーナー体育館

7月9日まで役員要請締め切り

昨年の各団体からの要望として景品をだしてほしい。景品を検討する。(個人1~3位まで団体は予算に合わせて勝者のみ?)学生ボランティア(教育大10名・福祉専門学校10名・北都福祉10名)アトラクション(南消防署にドリル演奏を依頼予定?)競技については昨年同様。協会としては、出発から景品所まで誘導。

2) 旭川市障害者球技大会

とき：11月21日(日)

場所：おびった全館使用

1. 卓球(障害区分別とオープン競技)
2. STT
3. ボッチャ(チーム)
4. フライングディスク

3) 旭川市障害者スポーツ教室

場所：おびった体育館

時間：13:30~16:30

1) 旭川市ボッチャ教室

平成16年10月3日(日)

2) 旭川市グランドゴルフ教室

平成17年 1月16日(日)

3) 旭川市フライングディスク教室

平成17年 2月20日(日)

2. 旭川障害者スポーツ協会事業

1) スポーツ教室

第1・第3土曜日午後の部

(13:00~17:00)

種目(ボッチャ2コート・卓球3~4コ

事務局だより

■事務所(「おびった」3階)

〒078-8329 旭川市宮前通東4155番地30

電話・FAX 0166-31-2226

□障連協事務局活動報告

4月27日の最終監査を皮切りに、常務理事会・理事会を経て、平成16年度の総会も無事終了することが出来ました。新年度へ向けての新たなスタートが始まりました。

総会終了後にはスポーツ関連事業である、障害者スポーツ教室(水泳)が、石田氏(日赤水安部)指導のもと早速6月に行われました。

参加者及びボランティアを含め、25名の参加応募があり年々人数も拡大傾向にあり大変喜んでおります。また、7月には300数十名参加予定の障害者スポーツフェスタが控えており、日々忙しい毎日に追われています。

以前より理事会や常務理事会などで検討されていた、事務局体制問題で事務局にパート職員も抱えることとなり、少しずつではありますが法人としての構えを強固に向けております。

そのような中で、障害者福祉センターの管理運営を任される中、センター所長や副所長などと毎月1回以上は、管理運営の問題点を検討し管理職員との連携・旭川市福祉部との調整も取りながら

頑張っております。

また、障害者団体の活動として、「北海道の医療費助成制度を考える連絡会」より反対運動への協力要請がありました「障害者の医療費支援の削減」という北海道の単独事業に対して、我々の団体からも代表が札幌の道庁へ出向き行動を起こしてきました。

今後も福祉に対しては益々厳しい状況を迎える時代になりましたが、障連協加盟の障害者15団体がより発展できるお手伝いが出来れば幸いです。



新パート職員自己紹介

6月より障連協事務局で週3回(水・金・土)、事務のお手伝いをさせていただいています。まだまだ分からないことばかりでご迷惑を掛けることもあるかもしれませんがどうぞよろしくお願いいたします。

小平 敬明(こだいら よしあき)

常任理事会の各部活動報告



事業部

担当常任理事
佐藤 忠公

障害者連絡協議会の活動がスタートして二年半が経過しました。

事業部では、旭川市のスポーツフェスタや球技大会、障害者の日記念事業など、これまでは旭川市保健福祉部障害福祉課と障害者団体による実行委員会が実施してきた事業を徐々に障害者連絡協議会が旭川市より委託を受け、その企画・実施を主な事業として行なって来ました。初めての試みであり、障連協も不慣れで参加者やボランティア及び協力者の皆様を戸惑わせながらの事業でしたが、皆様のご理解とご協力のもとで無事終了することができました。改めて関係者の皆様にお礼を申し上げます。

事業部の事業に限らず、障害者連絡協議会の事業は、障害者自らの手で様々な事業を展開することにより、雇用の場を作り出し各団体の会員をはじめ、多くの障害者に社会参加と自立の足がかりとなる機会を提供して行くことが大きな目的の一つでもあります。

目的を達成する為には、各団体間の違いや特徴を互いに理解しあい、それぞれの特徴を生かしながら全ての力を結集することが大切です。そのことによって、更に様々な事業の展開が可能となり、もっと多くの仲間に色々な機会を作り提供して行くことができると信じます。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

スポーツ・文化部

担当常任理事
田辺 邦夫

平成15年11月30日、210名の参加を仰ぎ盛大に『旭川市身体障害者球技大会』が施行されました。今年度は卓球・ボッチャに加えあらたに公開競技として“フライングディスク”を取り

入れた 参加者の半数ほどが初めての体験でしたがなかなか好評であった。フライングディスクは障害レベルにあまり関係なく多くの人が楽しめるスポーツであると感じた。

平成16年度は卓球・ボッチャ・フライングディスクが正式競技になると思われる。また平成15年12月6・7日 当協会監事である旭川視力障害者福祉協会事務局長 富田和信実行委員長の下『旭川市障害者の日記念事業』を開催いたしました。プログラムの一つに森山病院理事長森山領先生の軽快なお話と歌を講演していただき会場3百数十名の参加者が一体となり楽しいひと時を過ごしました。

今後の事業日程としましては12月4・5日を旭川市障害者の日記念事業を予定しております。障害者スポーツ関係につきましては別掲載にしております。

広報部

担当常任理事
篠田 良雄

この度、平成16年度のNPO法人旭川障害者連絡協議会の総会で青木利子常任理事が副理事長に就任されましたので、変わって広報部を担当する事になりました篠田でございます。何にせよ私は新聞発行については経験が無く、先輩委員に助けられながら其の任務を達成しなければならぬと感じているのであります、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

文章の達人に“刃物がいらぬ”と申しませんが、せめて旭川市が計画している私達に不利な行財政改革推進を進めようとしている折から、「障連協にゅーす」が皆様方の組織に取って欠かせない結束と団結の柱になって戴ければ幸いに存ずる次第で御座います。

どうぞ年に2回発行の原稿募集にご協力をお願い申し上げます。

私の回顧録

“ この度の2004年度定期総会において、常務理事を退任し新たにもうけられた相談役に選出されました高橋正己氏から特別寄稿がありました。 ”

■「おびった」誕生まで

相談員 高橋 正己

平成3年5月、社団法人旭川身体障害者福祉協会で、旭川身体障害者福祉センター建設運動について議論を交わし、今まで毎年旭川市に要望運動を続けて来たけれど、なかなか展望が開けて来ない、何処に原因があるのかと、私自身も反省しながらふと思い出したのが「私達の団体だけの要望に旭川市は腰を上げない」と思い、我々の団体が団結して障害者連絡協議会に提案をし、14団体が一致団結して市に要望することが望ましいと、障害者連絡協議会に提案させて頂きました。各団体の反応が大きく早速取り組むことにしようと言うことになり経過と趣旨説明、取組について論議、先ず市議会議員の皆さんの協力を仰ぐこと、どの議員さんをお願いするのか、私は市議会各会派の中から一人ずつ紹介議員を出して頂き、密な連絡を取り打合せを重ね、行政に要望する内容等、又市民に運動のピーアールをする為、街頭宣伝や署名活動を展開。障害者団体以外に各種団体の協力を頂きました。各会派から選出された市議会議員6名の方々には本当にお世話になりました。特に吉野務様にはお力添えを賜りました。

旭川市長さん、旭川市議会議長さんに要望書を提出、議員の皆さんに同席して頂きました。早速市議会に提案され採択、翌年度調査費が計上され、他市町村の福祉センター視察が始まり、建設場所等の要望最初は宮下10丁目学校跡地、旭川駅から近い事もあって、そのうち駅周辺開発が進み、「北彩都あさひかわ」の一角に建設地が決定第1号となる。建物についての打合せ、福祉部の方や建築部の皆さん方と膝を交えて打合せを再三に渡って行って来ました。特に問題になったのがプール、

旭川市内にプールが沢山あるので、温浴訓練が出来る15mのプールで我慢をしてほしい等、障害者が使う場合水温が低いと肌寒さが強い、又、障害者の中から水泳の選手が出るかも知れない、25mのプールでなければ呼吸法が合わない等を申し入れ最後は理解して頂きました。又、体育館の上部に回廊を作って頂き、風雨雪の日も体力づくりに歩くことが出来ます。大いに利用して下さい。

障連協に加盟している各団体の役員の皆さんの一糸乱れぬ団結力で完成したセンターです。センターの愛称を募集したところ、アイヌ語で「おびった」と名付けられました。ご存じのとおり、アイヌ語で「みんな」という意味だそうです。平成14年7月1日にオープン、実現までに12年かかりました。長いようで短かったような気がします。

近代的な建物と設備、障害者ばかりでなく、一般の方々にも空いている時は使っていただく事になっております。障害者の仲間が障害者の福祉の前進を願いながら、活動する拠点として大いに活用して下さい。

NPO法人旭川障害者連絡協議会もここに事務所を構え活動しておりますし、各種団体も事務所を設置しております。(完)





スクラップ

■ 2004.4.21(水)北海道新聞

(第3種郵便物認可)

北海道



旭川市とその周辺の精神障害者を中心となり、身体、知的障害者と同様のバス運賃の半額割引をバス会社に対して求める団体をつくり活動を始めて三年がたつ。会社側は「赤字経営で余裕がない」と消極的で、実現のめどは立っていない。この団体は障害者への報告会を続けるなど、地道な活動を続けている。

航空機や列車、バスなど、制度は身体、知的障害の事業者が適用している。これまで、障害者自身がバス会社三社に対し二度、要望書を提出交渉を重ねてきた。だが会社側は「経営が厳しく、半額割引の対象者拡大に慎重にならざるを得ない」と消極的だ。

同会は、二年前に共同作業所の通所者ら約二百六十人にアンケートを行っており、その結果から佐藤代表は「年金や生活保護で生活している人が多く、交通費負担は大きい」と訴える。

割引制度の表情を知ってもらうため、同会は、共同作業所や精神病院に Outreach、活動報告を行っているほか、毎月、実行委員会を開いて今後の展開を考えている。佐藤

旭川市とその周辺の精神障害者を中心となり、身体、知的障害者と同様のバス運賃の半額割引をバス会社に対して求める団体をつくり活動を始めて三年がたつ。会社側は「赤字経営で余裕がない」と消極的で、実現のめどは立っていない。この団体は障害者への報告会を続けるなど、地道な活動を続けている。

旭川などの精神障害者

バス運賃半額割引求め3年

会社側「赤字」と消極的

地道に活動継続の構え

代表は「精神障害者自身は旭川では初めて。バスに差別をなくすきっかけが立ち上がり活動するの。運賃だけでなく、あらゆることに話している。」

■ 2004.1.23(金)北海道新聞

障害者福祉センター「おのびった」(宮前通東)が、え、リフト付きバスの送同奨励賞に「熊っ子ライオン東光店」(東光七ノ七)と自動車学校「北工学園モータースクール」(東鷹栖一ノ二)が選ばれた。

一九九八年から、障害者や高齢者に配慮した施設や取り組みを表彰している。ハード部門は五十四件、ソフト部門二十四件の応募があった。

「おのびった」は充実した車いす使用者用駐車場や、大人用と子供用の二重の手すり、オストメイト対応トイレの設置など

表彰式は三十日、札幌の道庁知事会議室で行われる。

道の福祉のまちづくり賞
「おのびった」に優秀賞
奨励賞にライオン東光店など
道主催「北海道福祉の受賞団体が二十二日発表され、上川管内からハード部門優秀賞に旭川市

ブックを読む



2004年(平成16年)3月22日

福 祉 新 聞

障害者85%が反対

支援費と介護保険統合"待った"

JIL調査

当時の85%は支援費制度と介護保険の統合に反対。全国自立生活センター協議会(JIL)中西正司代表が当事者対象に行った緊急アンケートで明らかになった。「統合に賛成」は3%だった。「分からない」とした人も大半は「介護保険も支援費も先行きは不安」と見ており、「統合しか術はない」といった厚生労働省の論調に「待った」をかける要素となりそう。

緊急アンケートはJILが二月下旬からインターネット上で行ったもので、二週間という短期間ながら六百八十人の回答を得た。「介護保険と障害者施策についての議論をどう思うか」と理由(複数回答)も問いかけたところ、全体の85%に当たる五百七十五人

が「統合に反対」を答えた。うち90%が「そもそも障害者と高齢者の介護ニーズが異なる。同一のシステムに乗せるには無理があるから」と指摘している。「介護保険に統合された場合の生活を想像し、反対派は「社会参加が保障されないのでは」「要介護認定を軽くすることで介護給付

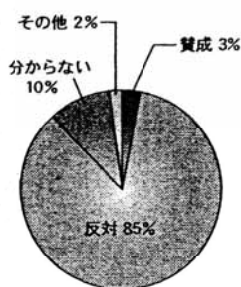
を減らす方向に進んでいることから、「社会生活のために必要なだけ介護者を付けるという障害者の考え方とは方向性が違う」という意見が多い。「介護保険の財源も将来的には行き詰まる可能性が高い」と見る向きもある。

さらに「分からない」と答えた七十人(全体の10%)のうち四十三人はその理由を「介護保険制度と支援費制度のどちらも先行きは不安だから」とした。賛成とも反対とも言い切れない

かった様子が分かる。一方の賛成派は二十二人で、全体の3%だった。理由は「支援費のサービスが毎年減っていくことを考えると、介護保険で四時間分の財源が確保されることが第一」とした人が十人で最も多。「今のままの介護保険に吸収されるなら反対だが

「と前置きした上で、障害者が入ることで介護保険制度が良くなるなら賛成」「介護保険で精神障害者のサービスが始まるなら、支援費制度に精神障害者が入るまで待つより良い」といった意見もあった。ただ、議論の入口でも賛否両論ある。アンケートで

介護保険と障害者施策の議論をどう思いますか？



■ 2004.6.23(水)北海道新聞

障害者支援費 2年続き赤字

厚労省試算

厚生労働省は二十二日、障害者の福祉サービス「支援費制度」で、ホームヘルパー派遣など住宅サービスの国の補助金が二〇〇四年度は約百七十億円不足するとの見通しを明らかにした。

予想以上に利用が伸びたためとしており、制度が始まった昨年度に続き、二年連続の赤字となる。同省は昨年十一月から

今年二月までの利用実績を基に試算、〇四年度の見込み額は当初予算を百七十億円上回る七百七十億円となった。

〇三年度も百二十八億円が不足し、省内の予算を流用して対応したが、今後の財源確保は難しく、介護保険との統合で財源不足を解消する案が検討されている。



スクラップ

■2004.6.23(水)北海道新聞

論戦から

補助金交付基準案

市「見直し期間短縮」

議員「一層厳格に」

二十二日の一般質問で、市が先に策定したばかりの「補助金交付基準」案が狙い上った。基準案は、各種団体や事業に対する補助金をどんな場合に交付し、額はどのように算定するかを明確化している。この日のやりとりで市側は、基準案に示した交付見直し期間の短縮などを示唆したが、議員からは「一層厳格な基準を求める声が出た」。

交付基準案について質問したのは久保厚子氏（無所属）。市の答弁で、二十年以上補助金の交付を受けている団体や事業

は、全件数の三〇％を超えていることが明らかにになった。こうした実態を踏まえ、久保氏は市に対し「長期にわたる補助金はしっかり見直すべきだ」と強く強調した。さらに、市が「同一団体への補助は五年をめどに見直す」とした点についても「五年では交付団体や社会、経済情勢の変化に対応するのは難しい、見直し期間は三年とすべきだ」と指摘。市側も「短縮は交付基準を最終的に固める際に検討しなければならぬ」と、見直し期間を再考する考えを示した。

（西条恵一郎）

北海道新聞

2004年

障害者へのホームヘルプ

支援費用14億円不足

厚労省

財源不足が危ぶまれていた障害者福祉支援費制度のホームヘルプサービスについて、厚生労働省は二十五日までに、二〇〇三年度分の国庫補助基準で必要とされる金額に対して十四億円不足する見通しを示した。同省障害福祉課は「可能な限り財源を集めた」としているが、実施主体の市町村は不足分の穴埋めを迫られる。

同課によると、ホームヘルプサービスは在宅サービスの中で最も利用が多く、昨年四月から二月末までの事業費は七百三十六億円に上る見込み。このうち二分の一を国が負担するため、三百六十

八億円が必要となる。同省は当初予算に、省内の別の予算を用いるなどして七十六億円を上乗せしたが、それでも三百五十四億円（必要な金額の96・1％）にとどまる。

道内についても、必要とされる金額約十四億二千五百万円のうち、交付予定額は約十三億七千万円（同96・2％）で、約五千四百万円不足する見込みだ。同課は「できる限り確保した。残りは市町村などで補うようにしてほしい」とし、市町村などにも交付予定額を知らせる。



ブックを読む



■2004.6.13(日)北海道新聞

障害者支援と介護保険の統合案

賛否迫られ揺れる団体

ヘルパー派遣やデイサービスなどに助成する障害者支援費制度を、介護保険制度へ統合するのに向け、厚生労働省の社会保障審議会障害者部会は十八日、障害者団体から賛否などをヒアリングする。統合は、利用が好調な支援費制度の財政負担が重すぎるためだ。サービスが十分提供され続けるかどうか不透明なため、賛成が反対かの決断を迫られる障害者団体からは「(介護保険に)行くも地獄、残るも地獄」の声が漏れる。

自己負担や上乗せサービスなどの具体的な内容、低所得者対策はまた示されていない。

すでに賛成表明しているのは、知的障害者や家族でつくる「全日本手をつなぐ育成会」(東京)。道内に組織もあり、「統合は必然」とする意見書案をまとめ、十六日に正式決定の運び。

補助金削減など国の三位一体改革が進む中、支援費制度を続ける難しさを踏まえ、統合には低所得者対策やケアマネジメ

度 障害者支援費制度の省予算を充てたが、昨年4月にスタート。施設介護のほか、在宅サービスなどもある。利用は予想以上に伸び、特にホームヘルプサービスは昨年度の国の予算額278億円に対し、約90億円もオーバーした。超過分に厚労省は別の省予算を充てたが、それでも間に合わなかった約14億円は実施主体の市町村が穴埋めした。本年度は昨年度比23%増の予算としたが、依然厳しい状況だ。障害者の総数は全人口の約5%の約656万人。

九日、東京・日比谷で、統合反対集会をした。参加した日本ALS(筋萎縮性側索硬化症)協会、東京都支部の吉本佳子事務局長は「ALSで、サービス低下は死活問題。国の言うことはすぐ変わるから不安」と話す。同協会北海道支部も「他支(部)と連携し、反対していく」という。



難病対策
打ち切り

患者「見直して」

知事に要望書を手渡す

道が打ち切りの検討を「対策事業について、対象病の患者三千人が八日午進めている道単独の難病」となる難治性肝炎や橋本前、高橋はるみ知事に対

■2004.6.9(水)北海道新聞

し、打ち切り見直しを迫る要望書を手渡した上で、「財政赤字のつけを弱者に回さないで」と訴えた。

要望書は、難病患者がおかれている状況を詳しく述べ、事業継続を求める内容。知事は記者団に対し「難病対策事業への対応は、患者さんの意見なども聞いた上でこれから決めたい」と述べたが、患者団体との面会は拒んだ。

一方、同日午後には、障害者や難病の患者団体などが札幌市内で、医療費削減の撤回を求める集会を開催した。二万四千人分の署名を道に手渡した。

◇第56回中興入選者(関係分)(敬称略)
小崎正史(札幌市) 越前谷西雄(空知管内栗山町)

平成16年度旭川市障害者

スポーツ関連事業の日程

報告：体育館部会指導部長 阿部龍雄

1. 旭川市障害者スポーツフェスタ

7月18日(日) 大雪アリーナ体育館使用

競技種目

札合わせ、スラローム30m、ゲートリレー、ボールすくい、ピーンバッグ投げ、つな引き、チビッコレース、幸運レース、借り物競走、スラロームリレー、玉入れ、お手をどうぞ、フライングディスク送り

以上昨年と同種目

2. 旭川市障害者球技大会(阿部)

11月21日(日) おびった全館使用

競技種目

卓球(障害別)・STT(盲人卓球)・ボッチャ(団体戦)・フライングディスク(個人戦)

3. 障害者水泳教室(プール部会) 6月開催

おびったプール使用 木曜日4回

日赤水安部担当(石田) 定員15名程度

8月開催 おびったプール使用 3日～6日4回予定

日赤水安部担当(石田)予定 定員15名程度

4. 障害者スポーツ教室(体育館部会)

1) ボッチャ教室

10月3日(日)13:30～16:30予定 おびった体育館使用 定員30名程度

球技大会の種目としての教室 北海道ボッチャ選手権大会参加可能、旭川障害者スポーツ協会ボッチャ大会参加可能

2) グランドゴルフ教室

平成17年1月16日(日)13:30～16:30予定

おびった体育館使用 定員30名程度 室内でコースを設営して、レクレーションとして活用できる。

3) フライングディスク教室

平成17年2月20日(日)13:30～16:30予定

おびった体育館使用 定員30名程度

アキュラシー・ディスタンス(立位・座位)の2種目で、全国障害者スポーツ大会の正式種目。障害区分なし。参考 9月26日(日) 札幌市ツドーム(スポ協よりおびった内で案内を掲示) 北海道障害者フライングディスク大会 北海道障害者スポーツ大会(夏季)参加可能 7月のスポーツフェスタ及び8月の水泳教室以外の日程は予定になります。

5. その他の事業日程

■ 旭川市障害者の日記念事業

12月4日(土)～5日(日) 会場 おびった

編集
後記

■ NPO法人になって2度目の総会を迎え、この度の「障連協ニュース」には北海道に数ある福祉センターが、知事の目に停まり映えある優秀賞を戴いたのであります。然し、その反面弱者に対する経済動向は、日増しに厳しさを増すばかりで、重度障害者の“医療費の削減”障害者の職場である“小規模通所授産施設の予算減”など、これからの障連協の役割は益々大きくなると感じられます。このように話題が暗い中にも、編集には新人の広報部長を助ける姿が見られました。殊に青木前広報部長の手際良い配列や編集などは、お見事でした。ありがとうございました。(篠田)

■ 障連協だよりは、2年目となりました。初刊の頃と比べると、センターの周りがずいぶん変わりました。道路が整備され、バスがすぐ近くを走るようになり、スーパーができ、合同庁舎

も完成。さらに便利になると思います。この「たより」もより充実するよう、力を合わせたいと思います。(大橋)

■ 障連協の今年の定期総会も5月30日「おびった」で開催されました。総会では役員の改選と組織の一部改正が承認されました。我々広報部会も新しく篠田良雄さんが選任され就任致しました。ニュースも今回で3号目の発行になりますが、委員それぞれが意見を出し合って編集作業を進めて来ました。我々はより良いニュースを作りたいと思って居りますが記事になる様な事が有りましたら障連協加盟団体のみなさんの協力が絶対に必要になりますのでご協力を期待致します。今回3号ニュースが発行される頃には今年度の障害者スポーツフェスタが大雪アリーナで開催されますので、我々広報部会員はカメラを持って取材に走り回りますのでよろしくお願い致します。(富田)